

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



# 緑小だより 7月号

令和7年6月30日（月）

茅ヶ崎市立緑が浜小学校  
校長 菅野 康一

## 【 主体的な学びとは 】

毎年行われる「緑小まつり」には、

- ・テーマに沿ったお店を出店するという目標に向かって、協力し作り上げていく過程において、認め合い、高めあう関係を構築する。
- ・異学年の交流を深める。
- ・子どもたちが**主体的な学習**をする機会とする。

というねらいがあります。文部科学省では、「**主体的な学び**」を「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」と定義しています。

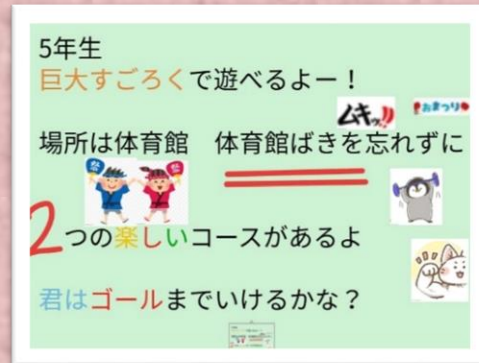
本校では、「日常生活から始まる問題解決～身近なもの・ことから始まる算数の学び～」のテーマの元、算数の授業研究に取り組んでいます。これには、日常の問題を**自分事**として捉え、解決することへの必要性を感じ取れるようにしたい！という願いがあります。

5月に6年生が『データの調べ方』の単元で、子どもたちが夢見てきた6年生だけに許される「お化け屋敷開催」という日常生活教材を取り上げました。「考えたい」という意欲を高め、さらによりよい運営をしたいという子どもたちの共通課題を、〈**数学の世界**〉として過去20年間の来場

者数データを分類整理し、今年はどのくらいの来場者数か？どうすればよりよく運営できるか？を自分事として捉え、〈**現実の世界**〉としてどのような出し物が考えられるか？具体的な場所やどんな役割があるか？を考えながら行動に移していきます。何といたっても6年生だけに許される特権ですから、**主体的**に取り組めることは、言うまでもありません。**主体的**に取り組めれば、緑小まつりが終わってからもしっかりと振り返りができるし、後輩たちのために成果を残せるという、次につなげる活動にもつながります。このように学校としては、授業の中でいかに子どもたちに**主体性**を持たせられるか！？という研究に取り組んでいるのです。

6月6日（金）に地域の方より嬉しい連絡が入りました。その方は、小和田浜公園でお子さんを遊ばせていたそうなのですが、緑小の5,6年生らしい子どもたちがとても優しく面倒を見てくれて嬉しかったとのこと。さっそく職員に伝え、子どもたちにも話してもらいました。

後日、教室巡視をしている時に高学年の担任より、クラスの子どもたちが優しく面倒を見てあげたことの報告を受け、私からも“ありがとう！学校だよりも



書くからね！“と声をかけました。これも立派な**主体性**、緑小の自慢です！！

上は、6月13日(金)に開催された「緑小まつり」のPRポスターです。以前は、手書きで校舎内に掲示したり、体育館に集まって、お店のPRタイムなどを設けていましたが、ここ数年は子どもたちがiPadを使ってデザインし、動画なども自由自在に作っています。子どもたちの吸収力には本当に感心しますし、どれをとっても**主体性**の固まりです。閉会セレモニーでは、「いつもよりどの学年もクオリティーが高かった」「作るのは大変だったけど、お客さんの笑

顔が見られてよかった」「6年生のお化け屋敷を5年生が引き継いでくれるのが楽しみ」「すごく楽しかった、楽しい時間をありがとう！」と各学年代表児童からの嬉しい報告がありました。開会セレモニーも含めて担当の緑っ子委員会の素晴らしい挨拶などの仕事ぶりにも目を見張りました。5時間目は、しっかりと緑小まつりの振り返りをしている学年も多く、お店の人たちにお礼を言いに行く1年生など、全校で取り組み、全校で振り返る姿を見て、緑小まつりの3つのねらいがしっかり達成されたことを嬉しく、そして誇らしく思いました！！